

『CT を用いた cranio-orbital foramen の存在頻度 および走行形態に関する放射線解剖学的研究』

1. 研究の対象

2024 年 3 月 1 日から 2024 年 8 月 31 日の間に JCHO 大阪病院で副鼻腔 CT 検査を受けた方

2. 研究目的・方法

研究期間：研究許可日～2026 年 12 月 31 日

頭蓋骨には眼や耳、頸部など周囲のさまざまな構造物と連絡する通路が多数存在し、これらを多くの神経や血管が通っています。眼窩と頭蓋内を連絡する通路も複数知られていますが、特に cranio-orbital foramen（COF：一定の日本語名がありません）は内部を動脈が通過することが多く、脳や眼の手術の際に出血の原因となることがあります。また稀ながら、眼窩の特定の部位がこの動脈のみから血流を受けていることもあり、このような場合には動脈の損傷が術後の合併症の原因となることもあります。

これまでの研究で、COF はおよそ半数の人にのみ存在することが知られていましたが、骨の内部を通過する直径 1mm 以下の構造物であり従来の画像検査では観察が困難であったことから、その詳細な存在頻度や走行経路はよくわかっていません。しかし近年の CT 検査の進歩により画像の解像度が向上し、頭蓋骨内部の COF を観察することが可能となりました。そこで、当院で過去に撮影された CT 画像を詳細に観察し、COF の頻度や形態を詳細に調べることができれば、今後の手術において出血のリスクを予測したり、予想外の合併症を避けたりすることが容易になると考えています。

COF の評価は電子化された CT 画像上で行います。本研究では既に行われた CT 検査のデータを用いるため、この研究のために追加で何らかの検査を行うことはありません。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

CT 画像およびカルテ番号・年齢・性別・病歴 等

4. 外部への試料・情報の提供・公表

外部への上記情報の提供・公表は予定していません。

5. 研究組織

実施医療機関及び研究責任医師

実施医療機関	研究責任医師
JCHO 大阪病院 放射線診断・IVR 科	大倉隆介

6. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。

この場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪市福島区福島 4 丁目 2-78

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院 放射線診断・IVR 科

医長 大倉隆介

TEL：06-6441-5451（代）